

審議結果

議案：長崎まちづくりのグランドデザイン 2050（案）

委員

- グランドデザインを策定するだけでは意味がなく、どう実践していくか、財政状況が厳しくなる中、重点的な取り組みの選択が非常に大切です。長崎駅周辺は企業が新しい都市づくりに積極的に取り組み、良い成果が出ていますが、浜町は駅周辺と比べて展開が目立っておらず、今後、重点的に取り組むべきことだと感じています。そのためには、若い人やクリエイティブな人材を他都市から引きつけることに集中的に取り組む必要があります。市が「クリエイティブ人材を求めている」、「支援する」という方針を明確に示し、文化・経済部局など様々な部局が連携して、クリエイティブな人材や起業を志す若い人たちを総合的に支援する体制を構築することが重要です。
- また、空き店舗や空き家、道路・広場・公園などの公共空間をうまく活用しながら、それらの場で活躍する人材を集めることが大切です。さらに、そのような人たちの交流拠点を確保し、単なる人材の集約ではなく、相互の交流を通じてより魅力的な取り組みが生まれる流れを作ることが重要です。
- 次に、そこで生まれた新しいアイデアの実現が課題です。最初は小規模なプロジェクトかもしれませんが、市が支援することで実現し、それが複数増えることで好循環が生まれると考えます。
- 都心部から周辺部へと展開を広げ、点から線、線から面へと拡大していくことが大切です。グランドデザイン策定後、迅速に取り掛かり展開することで、長崎市がより魅力的なまちへと進展すると感じました。

委員

- グランドデザインに掲げる計画を実現するためにどのような仕組みが必要なのか、計画から実践に至る仕組みが詳しく記載されていないように感じています。この点について、事務局の見解をお聞かせください。

事務局

- 庁内では関係所属長会議等を開催し、調整を図っているところです。今後は、資料④の33ページに記載するファーストステップについて、具体化を進めていきたいと考えています。他都市の取組みなどを参考にし、ロードマップの作成や実践的なアプローチを行いながら関係者を巻き込み、段階的に取り組みを推進していく考えです。また、既にある都市空間をより有効活用することに取り組んでいきたいと思っています。短期的に取り組める施策を含めながらグランドデザインの実現を推進していく考えです。

委員

- 人口減少が進み財政状況も厳しくなる中、行政機能も縮小せざるを得ない状態が来ると思います。そのような中で、グランドデザインをどのように市の各部局が展開できるの

か、どのような対応ができるのかが不明確です。その点について、方向性だけでも説明していただければと思います。

事務局

- グランドデザインは、素案段階で庁内各部局と内容を共有しています。グランドデザイン策定後は、各部局が主体的に事業を進めていくことが重要ですが、いきなり各部局に役割を割り当てるだけでは実現が進まないと考えています。そのため、まずはまちづくり部が中心となって各部局と調整を行い、取り組み推進する考えです。

事務局

- 資料④の 12 ページをご覧ください。今後は、立場や分野を超えた連携体制を構築し、資料右側に記載する価値創造の取り組みやアーバンデザインセンターなど公民学連携が求められると考えています。
- このような体制構築を目指す中、人口規模の縮小に伴い職員数も削減せざるを得ない状況にありますが、一方で、行政手続きのDX化により事務手続きの省力化が進んでいます。職員数は減少する中でも、市民に寄り添ったコミュニケーションなど、人にしかできない業務に特化した組織づくりが必要との認識を庁内で共有しておりますので、こうした活動をサポートしていくことが重要と考えています。
- 庁内の組織体制を直ちに変更することは困難であるため、本グランドデザインの実行にあたっては、まずはまちづくり部が窓口となり市民との対話体制を構築し、将来的な組織のあり方については、今後、庁内で検討してまいります。

委員

- 非常にわかりやすくまとめられていると感じています。
- パブリック・コメントで、「具体例が多い」というご意見がありますが、これは当然のことだと考えます。現在、様々な課題があり、それぞれに対して大きな考え方で取り組みを展開しようとしています。具体例はその大きな考え方を実現するための方法論であるため、具体例が多いことは避けられません。今後は課題と大きな考え方をもとに、具体的な行動を決定することが必要です。しかし、現在の市の組織体制の中では、これを進めることは難しいと考えます。重要なキーワードは「官民連携」だと思いますが、ここには企業、各種団体、個人など様々な関係者が含まれ、これらの間で調整を行う機関が必要ではないでしょうか。民間のアイデアを取り込み、それらを融合しながら課題解決していく組織が必要だと考えます。現在、市に「官民連携推進室」がありますが、その機能を強化するのか、あるいは「グランドデザイン推進室」のような部署を設置するのか、いずれにしても、調整機能を発揮し成果を上げる部署が必要だと考えます。単年度でできることは少ないため、ロードマップの作成も含め、課題解決の推進体制を整備すべきではないでしょうか。

関係人

- 前回委員会では、将来人口予測やこれから直面するリスクなどバッドシナリオの記載について意見がありましたが、その内容が資料④の4ページに明確に記載されており、今後の長崎の姿を予測する上で、非常にわかりやすいイメージが形成されたと感じています。
- 今後の展開ですが、前回の周知方法に関するご説明で、事務局から広報ながさきやSNSで周知するとのことでした。確認したところ広報ながさきとX（旧 Twitter）では情報が掲載されていましたが、若者層が主に利用する Instagram では情報が見当たりませんでした。若い世代の意見を積極的に聞き、当事者として気軽に参画できることを目指すのであれば、そもそもとして情報が届かなければ意味がないのではないのでしょうか。高校や大学と連携し、直接学生とコンタクトを取ることは可能かもしれませんが、情報を受け取れる人が限定されてしまいます。例えば、若年層から人気のあるインフルエンサーと連携しカジュアルに情報を発信することや、長崎市の子育て応援情報サイト「イーカオ」のように、情報を画像にまとめ、ビジュアル的にわかりやすく発信するなど、まずは若者に情報を届けるところから考えて欲しいと思います。これは短期の施策として、すぐに実行可能ではないかと思われませんが、この点について事務局のご見解をお聞かせください。

事務局

- 様々な媒体を通じた周知は重要であると考えており、グランドデザイン策定後は、多くの方々や若い世代の方々にも見ていただきたいと考えています。先日の市議会においても、子どもたちにも分かりやすい周知に努めてほしいというご意見もいただいています。今後、周知の方法については検討してまいります。なお、広報ながさきでも特集を組むことを予定しています。

関係人

- Xは、毎日投稿すると情報がすぐに流されてしまうため、画像などを活用して、いつでも確認できるような状態を整備していただけると、若者層も情報収集しやすいのではないのでしょうか。

委員

- 非常にしっかりとまとめられていると感じています。
- 「A 都心部」「B 地域拠点・生活地区」「C 斜面市街地」の各拠点のあり方については、これまでの議論を踏まえてご検討いただき、その結果がここにまとめられているものと理解しています。一方、各拠点の付加価値をいかに高めていくかについては、「D 都心部と周辺部のつながり」と「E 広域連携」が重要であると考えており、前々からお伝えしているところです。各拠点のつながりをどうつくるのか、広域連携をどう進めるのか

という部分については、ある程度方向性を記載していただいているものと理解していますが、モビリティハブとMaaSとの連動、まちづくりDXの推進などによる各拠点の連携のあり方については、今後進化させる余地があると考えています。

- 今回のような形での取りまとめについて、特段大きな意見はありませんが、各拠点の連携による今後の進化や、2050年に向けた取り組みの中で、グランドデザインの内容を変更・追加する必要がある可能性があります。グランドデザインや他の上位計画において、プログラムを継続的にアップデートできる仕組みを構築し、計画推進ができればよいと考えます。

委員

- 非常に見栄えも良くなり、長崎に興味を持つ方々に対して、インパクトのある充実した情報を提供できていると考えています。
- 官民連携や公民学連携がトレンドとなっており、今後は行政と民間が共に補完し合う時代になると予想されます。
- 今回のグランドデザインは、料理に例えるならば、非常に充実したレシピ集やレストランのメニュー表として作成されています。しかし、全体を通じて「長崎らしさ」は感じられますが、資料④の10～11ページだけを見ると、どこで実行される内容なのか一見ただけではよく理解できません。パソコンで1ページずつ閲覧すると、最初に機能の説明を読んだ上で、その後に地図が表示される形になります。そのため、読者は情報を改めて関連付けして理解し直す手間が生じてしまいます。そこで、ご提案として、「取組展開イメージ図」を最初に掲示し、どこで、どのような取り組みを行うのかを明確にした上で、各方針の説明や他都市事例を紹介する構成に変更することで、読者が「長崎とは何か」を理解した上で、具体的な施策を理解できるようになると考えられます。
- また、32ページに「共創」という言葉が出てきますが、冒頭のページにはこの言葉がありません。ぜひ、「共創」という言葉を冒頭のページに加えてみてはいかがでしょうか。
- 最後に、今後の進め方と関係者の巻き込み方についてです。本グランドデザインは、構想やビジョンに類するものであり、今後は具体的な実施計画や推進体制の構築に進むこととなります。次のステップに向けた方向づけを明確にできると良いと考えます。策定して終わりではなく、今後、市内各地で様々な主体がグランドデザインに基づく取り組みを進め、具体的な成果も生まれてくると予想されます。こうした取り組みが進むにつれ、新しい長崎市の姿が実現していくと思います。その際の課題として、進捗状況をどのように評価するのか、次の新しいグランドデザインを策定するのか、こうした方向性が示されることで、長崎へ移住される方や住まわれている市民が、長期的な見通しを持ちながら、成果を生み出すまちづくりが実現できると考えます。

委員長

- 関連意見を申し上げます。個別の方針や取組みイメージ、参考事例についてはよくまとめられていますが、グランドデザインの全体の方向性を捉えやすくするため、全体の見

取り図のようなものがあると良いのではないかと考えます。

委員

- 非常にわかりやすく整理され、内容も充実してきました。また、大きな方向性も明確化されてきたと考えます。
- パブリック・コメントの内容から、グランドデザイン策定の必要性に対する市民理解が十分でないように感じます。課題から施策展開に至る論理的な説明を追記することで、納得感が向上するものと考えられます。また、現在のグランドデザインは手段に関する記載が多く、目指すゴールが明確化されていません。課題を踏まえた上で、どのようなロジックでどのようなゴールを目指すのかを明示し、その実現手段を段階的に説明する構成とすることで、市民理解がより深まると考えられます。例えば、「オール長崎」という言葉が多用されていますが、その必要性に関する記載が見当たりません。今後のまちづくりにおいて、民間事業者や大学との協働、民間事業の組み込みが重要であることが、「オール長崎」で取り組む理由であると考えられます。なお、共創そのものが目的ではなく、共創を通じて「2050年に魅力的な長崎であり続ける」ということ絶対条件としてあると考えますので、こうした記述をゴール像として記載してはいかがでしょうか。
- 急激な人口減少が予測される中、例えば、一つ目のゴールに「人口減少の抑止」を、二つ目のゴールに「産業構造を多層化」を、三つ目のゴールに「コンパクト&ネットワークの都市構造の構築」を掲げるなど、ゴールとする柱を明確に示すことで、その先の方針の必要性が理解しやすくなるのではないかと考えます。ゴールとする柱を明確にし、課題、施策までを論理的に整理することで、読みやすさが確保できると考えます。
- 次に、「A 都心部」「B 地域拠点・生活地区」「C 斜面市街地」の順番ですが、都心部の次に斜面市街地の順序とすると、都心部と斜面市街地の関係性の議論がしやすくなるのではないかと考えます。

委員長

- 只今のご意見ですが、グランドデザインとは何か、なぜこのグランドデザインが必要なのかといった全体的な方向性について、より整理する必要があるというご意見と受け止めました。また、人口減少対策として経済再生や少子化対策に重点的に取り組む中、まちづくりの分野からも人口減少対策に取り組むため、グランドデザインの検討を進めていますが、このグランドデザインがどのような位置付けにあるのか、その整理に検討の余地があるというご指摘と理解いたしました。
- また、「A 都心部」「B 地域拠点・生活地区」「C 斜面市街地」のうち、BとCの順序を入れ替えるとのご提案ですが、この点について事務局の見解はありますか。

事務局

- 当初、本市中心に都心部があり郊外に地域拠点があるという都市構造を前提に検討を進めていたため、このような順序となっています。しかし、都心部と斜面市街地の関係性

を考慮すると検討の余地があると考えられますので、その点につきましては検討させていただきます。

委員

- グランドデザインはまちづくりを支援する施策に重点が置かれていますが、実効性を担保するには、支援だけでなく「指導」を組み合わせることが不可欠です。例えば、居住誘導区域に大規模マンションが建設される際の景観に関する届出や、空き家の指導強化など支援と指導を組み合わせることで、より実効性のあるまちづくりが実現できると考えます。
- また、今後5年、10年、2050年に向けて、生活の中で様々な課題が生じてくることが予想されます。こうした課題に対応するため、まちづくり協議会などで継続的に議論を深めることや、協議会から提起された課題を受け止めて各行政計画やグランドデザインに反映させる視点を持つこと、さらには協議会の活性化と再編を図る視点を持つことも必要ではないでしょうか。
- 「E 広域連携」についてご質問します。半導体関連産業の発展に伴い、東長崎地域をベッドタウンとして位置づけ、広域的に活性化を図るという重要な視点が提示されています。現状分析において、時津・長与町が言及されていることは承知していますが、時津・長与町に関しても、広域連携による活性化の方向性について言及する必要があるのではないのでしょうか。

事務局

- ご指摘いただいた支援と指導のあり方ですが、現在のグランドデザインでは、支援の内容が比重を占めているように見えるのですが、共通テーマでは安全性の問題などを記載しています。今後の取組みにあたっては、指導の強化にも注力する必要があると考えていますので、関係部局と連携しながら、支援と指導のバランスの調整を図っていききたいと考えています。
- 次に、まちづくり協議会についてのご指摘ですが、現在、課題の複雑化が進んでおり、行政のみあるいは民間のみでは解決が困難な事例が増加しています。そのため、多様な関係者が連携して課題解決に取り組むことが重要と認識しています。この認識は、都心部・地域拠点・斜面市街地といった地域の特性を問わず共通するものと考えています。具体的な取組方法が現段階で回答はできませんが、いただいたご指摘を踏まえ取組みを進めていきたいと考えています。
- 最後に、時津・長与町との連携について、本編には直接の記載がありませんが、近隣の時津・長与町との広域連携は非常に重要であると考えています。現在のグランドデザインでは、両町との具体的な連携方法は記載できていませんが、参考資料（資料5）に、時津・長与町との移動傾向などの分析結果を掲載しております。また、既に長崎市は、時津・長与町と「長崎広域連携中枢都市圏連携協約」を締結し、広域的な取り組みを行っていますので、こうした既存の取組みの中でも、グランドデザインのイメージを持

ちつつ取り組みを推進する考えです。

委員

- 時津・長与町などの近隣の自治体とも連携し、住宅の確保だけではなく、雇用機会、医療・福祉サービス、幹線道路の活用など、生活全般に関わる様々な課題について連携を進める必要があります。グランドデザインや総合計画においても、こうした連携強化の視点も持っていただきたいです。

委員長

- 広域連携については、時津・長与町を競争相手としてではなく、長崎都市圏の一部として、お互いに多様な暮らし方を作り出すパートナーとして考える必要があると思います。現在進められている連携中枢都市圏の取り組みでも、長崎都市圏としてグランドデザインを共有し、共に地域づくりを進めていく姿勢が非常に重要かと思いました。

委員

- 資料④の Chapter 3 における役割分担の明記について、非常にわかりやすくなったと感じています。そこで1点申し上げたいのですが、地域活動を支援する団体やまちづくり団体、エリアマネジメント団体の育成が重要だという点です。Chapter 3 では、「市民等」「民間等」と記載されていますが、この「等」に該当する主体こそが、実は非常に重要な役割を担う存在だと考えます。外部から参入する民間企業の場合、採算性が合わなければ撤退する傾向が見られますが、地域に根ざした実行部隊の育成・発掘は、市が果たすべき重要な役割ではないでしょうか。市が地域活動やエリアの取り組みに継続的に関わることは困難なため、自然発生的なプレイヤーの出現が理想的です。しかし、全ての地区でそうした動きが生まれるわけではありません。33 ページの「ファーストステップ」では、「体制・仕組みづくり」までが記載されていますが、さらに一步踏み込んで、プレイヤー探しと人材育成を次のステップとして組み込むことが出来れば良いと感じました。

関係人

- パブリック・コメントで若者の声を反映いただき、ありがとうございます。若者の政策参加に関してですが、2050 年までの長期計画では、現在の若者も 25 年後には若者ではなくなっています。そこで、若者たちが年を重ねていく中で、政策への関わり方を長期的・段階的に示すことで、若者の今後の行動指針がより見えやすくなると思います。
- また、市内には公共施設や市民団体がありますが、若者の交流拠点が不足しているという課題があります。学生時代は学校が活動の場になりますが、社会人になると活動場所がなく、活動に支障が生じているという意見もあります。若者の活動拠点を設けることで、若者の意見をより把握できるようになるほか、地域住民、行政、民間企業などとの意見交換がしやすくなると思います。

- 広報面について、より多くの市民に情報が届くよう、広報媒体を増やして欲しいと思います。市内では特定地域限定の情報発信アプリが活用されている事例があります。このアプリは、全世界に発信するSNSとは異なり、特定の地域のSNSのような形で機能しています。あらゆる世代がこのツールを通じて意見を発信でき、地域の掲示板のように情報が蓄積されますので、若者の当事者意識を高める一つの手段にもなると考えます。

委員

- 2050年を目標年次とする根拠をもっと明確にしていきたいと思います。25年間という長期計画では、5年、10年とまちづくりに携わる人材が入れ替わります。2050年を目標年次として取り組む理由を明確にしておかなければ、方針のぶれや目標の見失いにつながるのではないのでしょうか。例えば、現在の中高校生も25年後には40歳になっています。彼らがその年齢に達したときにもわかるような計画、すなわち「なぜグランドデザインを策定するのか」という目的を明確にしていきたいと思います。
- 次に、Chapter 3に長期的な視点を持った取り組みの詳細を記載していただいています。5年後、10年後など中間年次における進捗状況の評価基準を大まかでもいいので記載していただくと、まちづくりに携わる方々の判断基準になると思いますので、ご検討いただければと思います。

委員長

- 国においても、2050年を目標とした長期計画として「国土のグランドデザイン」を公表していますが、本グランドデザインが2050年を目標年次とする必要性の明記に関するご意見です。
- また、中間年次における評価に関するご意見ですが、この点について事務局で検討されていることなどありますか。

事務局

- 2050年を目標年次とする理由ですが、まちづくりの方向性の決定からまちの概成に要する期間を考慮し設定しているもので、「ナガサキ・アーバン・ルネッサンス構想」を参考に設定しています。先ほど委員長からご説明がありましたように、国の計画の考え方も踏まえ、2050年を目標年次とする理由の記載内容を検討します。
- また、中間年次における評価ですが、このグランドデザインは多様な関係者が方向性を共有しながら様々な取り組みを進めていくことを目指したものです。このため、個別具体の取り組みの進捗管理を逐一行うことは想定していませんが、概ね中間年となる2040年を目途に、社会情勢の変化、例えばデジタル技術の進展などを踏まえながら見直しを行う考えです。

委員

- これまでの議論の中で、グランドデザインの全体像が見えづらいとのご意見がありまし

たが、まちづくりの方針や取り組みの方向性を一覧にしたページの追加を提案いたします。

- また、資料⑤の参考資料「資料・データ集」には、課題を踏まえた方針の整理がされているため、参考資料と本編の連動性を高めることについて提案いたします。なお、参考資料はかなりのページ数がありますので、ホームページでの公開にあたっては、閲覧のしやすさについて工夫していただくことで、より手に取っていただきやすくなると思います。

委員

- 参考資料にグランドデザインのゴールに関して記載したページはありますか。

事務局

- 参考資料は本編を補完するものとして位置付けており、ゴールに関する記載は、本編にまちづくりの理念などを掲げているところです。

委員

- 理念がゴールということではないと思いますが、グランドデザインですので、こういうまちになるというようなゴールを分かりやすく言語化するもしくは概念図にするなどあっても良いと考えます。
- また、参考資料にもロジックに関する記載がありましたので、本編との連動性を高めることや参考資料のページを本編に移すことも検討してはいかがでしょうか。
- 若年層への情報発信は重要な課題であり、推進の必要性は理解いたします。しかし、他の自治体での経験を踏まえると、市職員による Instagram 運用には実現上の課題があると考えます。Instagram のアルゴリズムに対応するためには、継続的なアカウントの育成と毎日の投稿などの相当な運用負担が生じます。また、アプリ開発も高額な投資に対してダウンロード数が上がらない事例も多くあり、万能ではありません。代わりに、長崎市 LINE 公式アカウントは6万人程度登録されており、既存リソースを活用する方法があります。全てを行政で完結させることは現実的ではないため、本委員会出席団体の皆様や長崎市が連携可能な団体に情報拡散の協力を依頼するなど、外部との連携が必要ではないでしょうか。

委員

- 資料④の33ページに、「みらいの長崎」に向けたファーストステップとして3点挙げられていますが、この3点をファーストステップとした理由について説明をお願いします。また、ファーストステップという割には抽象度が高い表現となっており、グランドデザインを前進させるための仕組みや体制といったポイントは押さえられていますが、ここについてはより具体性が欲しいと感じています。

事務局

- この3点については、今あるのをいかに活用していくかという視点で記載しており、1、2点目はどちらかというと都心部に関するものを、3点目は地域拠点・生活地区に関連するものとなります。Chapter 3では、エリアやネットワークの視点ごとに、短期的なものから長期的なものまで様々な取り組みの方向性を掲げていますが、すぐに取り組むべきと考えているものを記載しています。

関係人

- パブリック・コメントに学生の方のご意見がありましたが、今の子どもたちが感じている違和感などは前向きなヒントとして大切にしていきたい。
- グランドデザインの目標年次である2050年は急速に到来すると感じており、短期的には環境整備に取り組む必要があると考えます。子育て世帯の住みやすさについては、ハード面よりも、出産、医療、保育、仕事面の整備が重要で、これらが整備されてからグランドデザインに描かれているような道路整備や居場所づくり、コワーキングスペースの確保だと思っています。
- また、空き家対策や斜面市街地については、イノシシを懸念する声が多く上がっているため、そのような環境整備も短期的に取り組んでほしい。

関係人

- この資料を読んだときは内容がよく分かりませんでした。本日皆様のご意見を聞き、事務局の説明を受け、理解が進みました。パブリック・コメントのご意見については共感しながら読ませていただきました。所属している会員に少しでもグランドデザインのことを分かっていたらよいように、話をしていきたいと考えています。

委員長

- 本日皆様からいただいたご意見は、大きく分けると、案に関するご意見とグランドデザインの今後の実現に向けたご意見であったと思います。
- 案の内容に関しては、非常によくまとめられているというご意見がありました。特に個別の方針や取り組みイメージについてはよくまとめられています。冒頭のグランドデザインそのものの位置づけや必要性、グランドデザインが目指す全体の方向性が何かをより明確に示すべきとのご意見がありました。
- 今後、グランドデザインを策定後、どのように実現していくかという部分について、庁内体制から官民連携、周知まで様々なご意見がありました。グランドデザインを策定した後が大事だと思いますので、その点についても検討をお願いします。
- 簡単にまとめましたが、本日皆様からいただいたご意見については、事務局の方で対応内容を検討し、委員長確認後、各委員の皆様にご説明するというような進め方でよろしいでしょうか。

各委員

- 異議なし

委員長

- それでは、そのようにさせていただきます。本日の議案は以上となります。活発な討論と円滑な会の進行に協力いただきましてありがとうございました。
- 本日の委員会が最後の委員会となります。本検討委員会の規則第7条で「委員長は、調査審議が終わったときは、速やかにその結果を市長に報告しなければならない。」となっています。今回いただいたご意見を反映させたものを最終案として、調査審議を終え、市長に報告してよろしいでしょうか。なお、市長への報告内容ですが、最終案について異議がない旨報告し、第1回から第5回までの審議結果、委員会資料、議事録をまとめて提出したいと考えています。以上の内容を含めた報告書の文面については、委員長一任として取り扱うこととします。

各委員

- 異議なし

以上